

武庫川流域委員会第5回まちづくり部会 050914 資料 田村博美

1. 流域各市総合計画に対する課題と河川整備方針等との関連 (田村)再掲及び一部追加 050914

総合計画による将来人口予測が短期間に推計と現況とで乖離をきたしている。尼崎市、西宮市では予測に対し増、三田市では減になっている。特に武庫川の上中流域にあたる三田市や西宮市北部地域、宝塚市北部地域の将来土地利用動向、将来人口の見極めと武庫川流域の総合治水計画との整合性の検証が必要と考える。与条件として受けるべき信頼のある予測期間についての問題もある。(フローB関連)

また、山林や緑地の保全と適切な管理による流出減少効果、市街化調整区域での大規模開発計画の将来動向(例えば宝塚新都市など)市街化区域未開発地区や未利用地の開発動向、市街地内の大幅な土地利用転換動向、市街化区域を含めた造林、緑化による流出抑制効果、などについても時間的制約の範囲内で詳細な資料と適切な判断に基づく総合治水の検討が必要と考える。(フローB、C関連)

各市とも総合治水の一環として、雨水貯留利用、雨水の地下浸透、地下水涵養、下水処理水の一部再利用等水循環に対する関心は強い。しかし、高潮、津波による浸水への対策は若干記載が見られるものの下流市街地における超過洪水対策については殆ど配慮されていない。今後、基本高水の検討と並行して検討が必要であろう。(フローB関連)

各市の総合計画では武庫川ダムの建設への要請、促進、利用などが記載され、治水やまちづくりでの関連が強い。今後、流域委員会による総合治水計画検討内容と各市総合計画改定時の整合性確保が必要と考える。

各市の総合計画による武庫川の位置づけは、三田市、宝塚市では中心市街地を貫流するため市街地整備、土地利用、観光商業振興、景観整備等から重要な位置にあり、河川空間と景観、文化歴史的脈絡の活用、河川利用計画と市街地整備・都市整備の密接な連携が期待されているし、相互扶助的検討が必要である。尼崎市、伊丹市、西宮市等では市域の重要な公園緑地として、また市街地景観構成や周辺地域の歴史文化資源とのネットワーク構成等、重要な空間要素としてまた連携要素として位置づけられている。

そのほか河川整備の影響、効果、市街地サイドの計画による河川への影響など相互の計画内容の調整と相乗効果策の検討が必要である。(フローC、D関連)

以上、各市総合計画策定時から4～6年経過しており、現状動向との差異が大きな要素や指標に関しては武庫川総合治水計画立案への影響が大きいため、立案時における各市へのヒアリングや情報交換等が必要不可欠と考える。総合治水WTやまちづくりWGでの情報共有化や意見交換を是非ともお願いしたい。

2. 流域各市都市計画MPに対する課題と河川整備方針等との関連 (田村)再掲及び一部追加 050914

西宮市、尼崎市、伊丹市、宝塚市、三田市では武庫川を都市構造上の重要な軸として位置づけている。特に西宮市では、武庫川水とみどりの軸として、宝塚市では武庫川回廊として、三田市では風土・歴史・文化の象徴として位置づけ、都市の中心骨格、都市活動軸等として利活用、資源の保全、相互依存といった多目的の活用が計画されている。

また、殆どの都市で武庫川の自然環境やレクリエーション空間と周辺の自然、文化、歴史資源とのネットワーク化による多様で快適なまちづくり計画が提唱されている。(フローC関連)

武庫川の南部高水敷は沿川各市の都市計画公園や緑地として計画決定されている。西宮市では沿川の緑地を含めて風致地区指定がなされ貴重な都市景観としても位置づけられている。(フローC関連)

武庫川の支流についてもその多くは、水とみどりのネットワークに位置づけられている。

また、現地調査の中で、宝塚市南部市街地や三田市の武庫川沿川では土地利用転換や中高層建築活動が活発化しつつあり、武庫川の景観への影響や環境のあり方等も都市側の問題としてだけでなく双方で十分検討することが必要である。今後、景観法においても景観重要公共施設の整備等との関連が課題となると思われる。 (フロー C 関連)

各市の都市計画の見直しは概ね 5 年毎に行われているが、阪神間都市計画については昨年度見直され次回見直しは 4 年後である。現在用途地域の見直しが準備中で平成 18 年度に見直しされる予定である。当然各市の人口動向や産業動向と連動して見直されるものであり、当委員会としても流域や氾濫域の各市の将来市街地と土地利用の動向を把握した上で議論する必要があると考える。

また、同時に武庫川河川区域の親水空間等の利活用方策、沿川市街地の都市整備と河川空間の有効かつ調和の取れた活用等、都市と河川両者間のより一層の相互調整、協働化が必要と考える。

(フロー C, D 関連)

これまで基本高水の議論に集中してきたきらいがあるが、今後の委員会の開催予定等を勘案すると、フロー C, D 関連の議論を積極的に進めていくことと、そのためのデータ収集が必要であると痛感しています。

また、提案として武庫川の利活用策の一つとして都市の多様な活動とリンクした地域拠点や交流拠点さらには上流から下流域にいたる地域交流、情報交流の拠点づくり等を今後の委員会で提案したいと考えています。(例えば武庫川かわのえき)

3. 阪神間都市計画、神戸都市計画等に対する評価と課題

都市計画は概ね 20 年後の都市の姿を展望しつつ、10 年後を目標年次とする計画を策定する。また、用途地域等は概ね 5 年毎に見直しを行っている。

B の総合治水計画や C の検討を行うにあたり、流域の将来土地利用動向等を抑えておく必要がある。

阪神間都市計画区域の武庫川流域都市と神戸都市計画区域の武庫川流域フレームをまとめ直し、武庫川流域及び氾濫域として区域の将来人口、土地利用動向を整理し、評価分析することが必要である。

武庫川流域都市の都市計画区域内人口の推移と今後の予測(中、長期の見通し) (フロー B 関連)

上記区域の産業、人口の将来動向と土地利用の変化、及び大規模土地利用転換の動向 (フロー B 関連)

流域内開発構想、計画の将来見通し (フロー B 関連)

武庫川にかかる樹林、景観等資源についての評価と方針 (フロー C 関連)

市街化区域面積の将来動向と緑地復元化等について (フロー B 関連)

以上の内容について県担当部局へのヒアリングを行いたい。